



"今" 公務員から ITエンジニアを目指すべき理由

～社会変化とキャリアを見据えた新しい選択肢～



社会背景と市場動向

政府が掲げるデジタル人材確保の重要性

デジタル庁の重点計画：2025年度までに**全ての地方公共団体**の標準標準システムをガバメントクラウドへ移行

公共システム標準化・クラウド移行が現在進行中

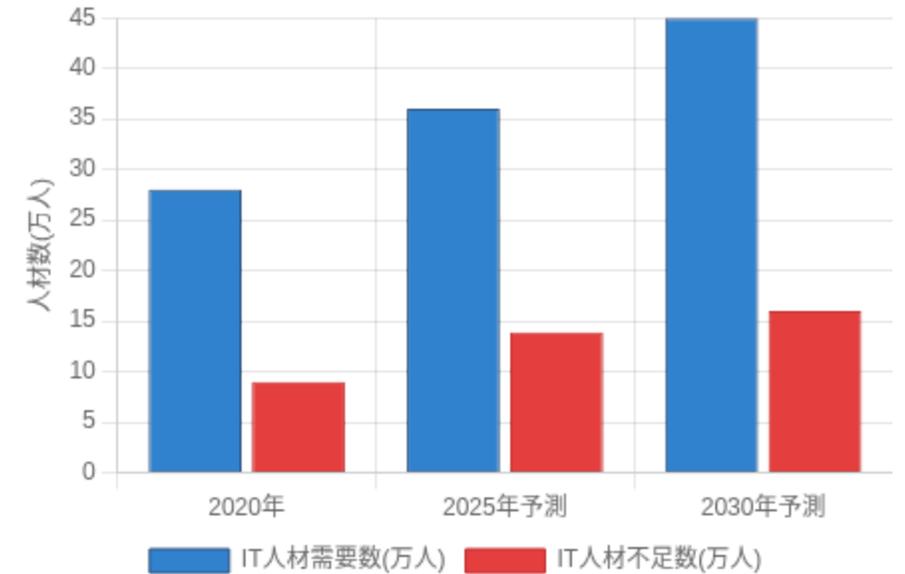
ガバメントクラウド整備：AWS、Google Cloud、Microsoft Azureが認定サービスとして選定され、自治体DXが加速

デジタル人材不足は構造的課題 → 長期需要の裏付け

経済産業省データ：IT人材の不足数が**13.9万人**、情報セキュリティ人材不足は**4.8万人**にまで拡大予測

2025年の崖：DXが進まない場合、最大**約12兆円/年**の経済損失が発生する可能性（2022年GDP比2%以上）

IT/デジタル人材需要予測



出典：経済産業省「IT人材育成の状況等について」

市場動向のポイント

転職市場は活発化、2023-2024年の有効求人倍率は継続して上昇傾向にあり、IT分野では特に高い需要が継続

生成AIの加速と"使う側"になるメリット

✓ 生成AIが普及しきる前に活用できることの市場価値上昇

AIエンジニアの年収相場：約800～1,000万円（JAC Recruitment調査）

経済産業省データ：AIエンジニアの需要数は2020年の3.8万人から2030年には24万人へと急増予測

✓ 現場でAIを設計・運用できる人材は少数精鋭

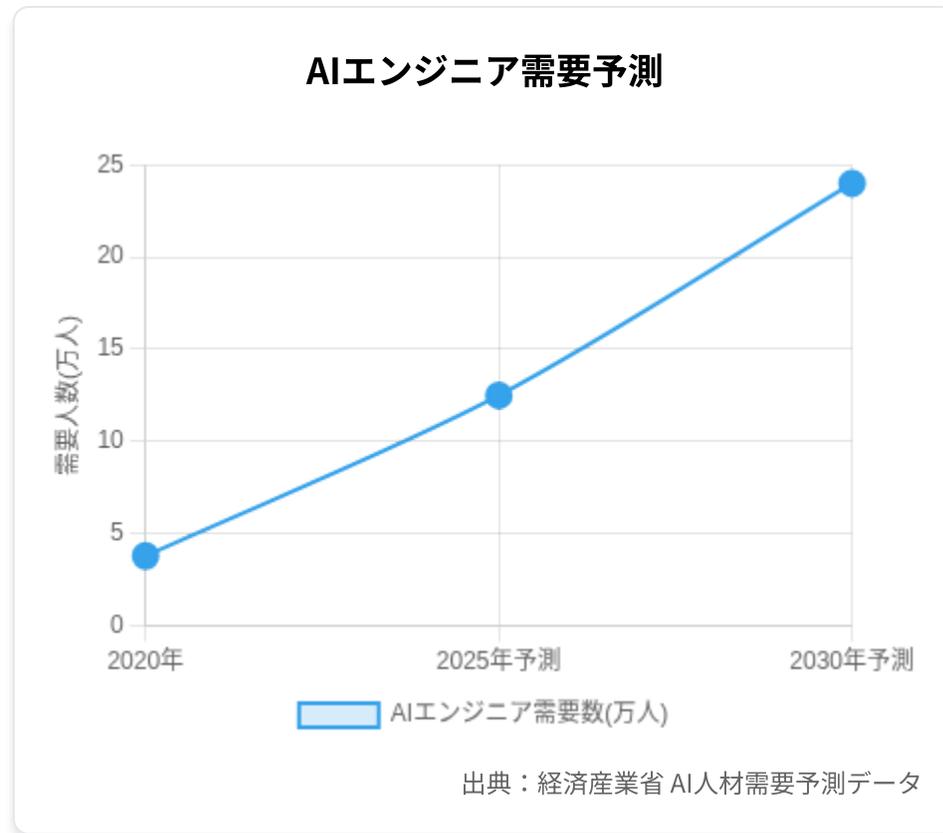
生成AIツールを活用できる人とそうでない人の間で生産性に大きな格差が発生

ITエンジニアの63%が生成AIの普及によるキャリアへの不安を感じている（2024年調査）

✓ 公務員時代の業務理解 × ITスキル × AI活用 = 独自の強み

行政業務知識と技術スキルを持つ人材は公共DX領域での差別化要因に

業務プロセス改善とAI導入を同時に推進できる希少な人材としての市場価値



💡 AI活用のポイント

→ AIツール活用スキルがあれば、通常の2～5倍の生産性

→ 「作る側」になれば、市場価値はさらに倍増

スキルが資産になる環境

🔑 公務員：配属や業務でスキル習得機会に制限

人事異動サイクルが定期的で専門性を深める前に異動となりがち
技術革新への対応が組織全体のペースに依存
習得したスキルが組織外で評価されにくい傾向

🖥️ IT：学べばすぐ実務に直結、技術は転職や副業にも活かせる

習得した技術スキルはプロジェクトですぐに実践可能
スキルの市場価値が明確で、転職・副業など活用範囲が広い
日々の業務自体がスキル向上の機会となり、経験とともに価値が上昇

📈 専門スキルの習熟が市場価値を押し上げる

IT業界は年功序列ではなく、**スキル習熟度や成果に基づく評価**が主流
特定分野の専門知識を持つエンジニアは、市場での評価が高く、キャリア選択肢も広がる
技術トレンドに合わせたスキルアップで継続的に収入を伸ばすことが可能

スキル習得と価値向上の流れ



ITスキルが資産となる理由

継続的な成長性

技術力に応じて段階的に年収アップが可能

市場流動性

スキル証明があれば、組織間の移動が容易

複合的価値

業務知識×技術力で独自の市場価値を創出

💡 スキル習得の仕組み

項目	公務員	ITエンジニア
習得方法	研修制度	実務+自己学習
評価反映	年功序列が主体	スキル・成果評価
転用性	限定的	高い(転職・副業)

キャリアパスを自分で設計できる

☑ 公務員：昇進・異動ルートがほぼ固定

年功序列が基本で、昇格は勤続年数に左右されることが多く、個人の選択肢は限定的。自己決定できる範囲が狭く、異動も組織の都合が優先される。

☑ IT：専門職・マネジメント・フリーランスなど多様な道

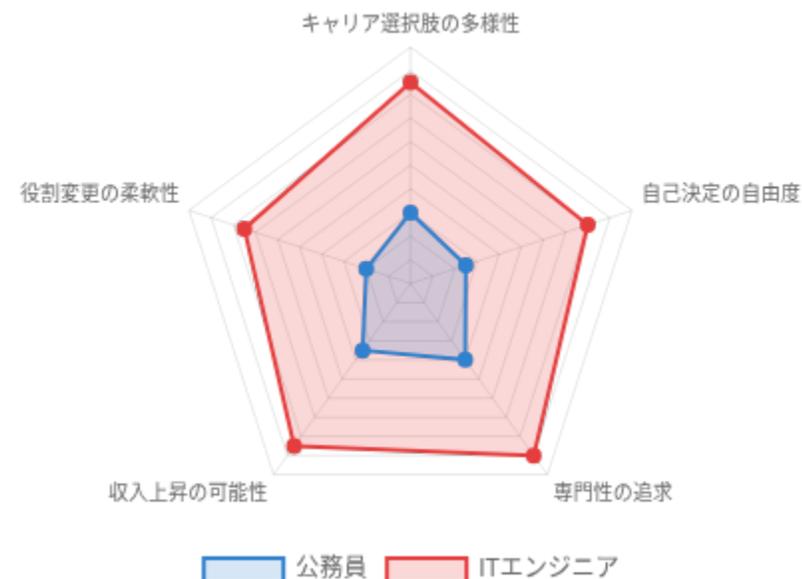
技術スペシャリスト、プロジェクトマネージャー、コンサルタント、起業家など**自分の適性や志向**に合わせた複数の選択肢がある。



☑ 中長期で年収・役割を戦略的に選択可能

身につけたスキルに応じて**市場価値が向上**。転職やキャリアチェンジを通じて年収アップを実現しやすい環境。専門性を深める・広げるなど自己投資の効果が報酬に直結。

キャリアパスの柔軟性比較



※イメージ図：職種による多様性を表現

💡 キャリア戦略のポイント

- 公務員経験で培った業務知識は転職市場で差別化要因に
- IT業界は「スキル×実績」で評価される実力主義
- 市場ニーズを見据えた技術選択が年収上昇のカギ

働く場所の自由度

🏢 公務員：基本出社・勤務地固定

- 原則として**フルタイム出社**が基本
- 転勤命令による**勤務地の変更**に応じる必要あり
- コロナ禍でも他業種と比較して**リモートワーク導入率は低水準**

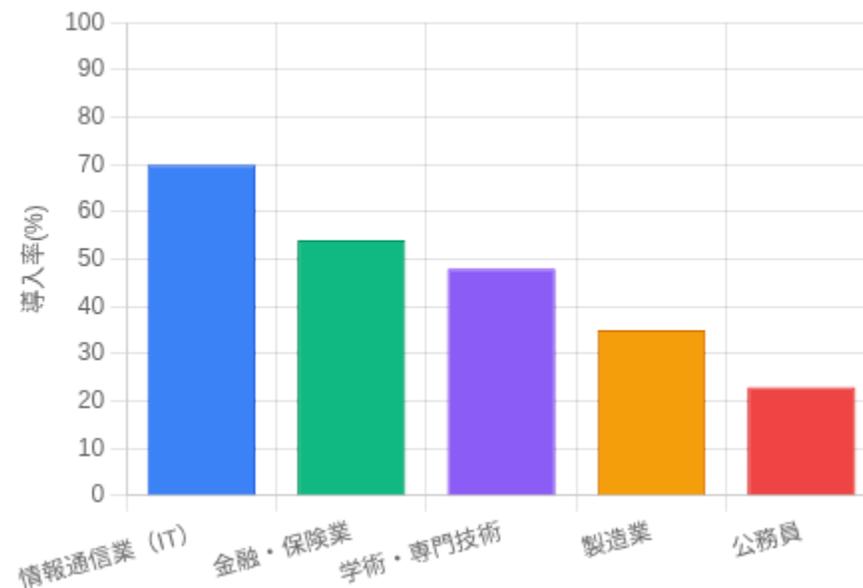
🏠 IT業界：リモートワークのしやすさ

- 情報通信業の**テレワーク導入率は約70%**と高水準
- 多くの企業が週**2~3日以上**のリモートワークを恒久制度化
- クラウドツールやコミュニケーションツールの活用で**場所を問わない協働**が一般的

📍 居住地やライフスタイルに合わせて働ける

- 地方移住やワーケーションなど**柔軟な働き方**が実現可能
- 通勤時間の削減により、家族との時間や自己研鑽に**1日平均約1時間以上**を還元
- 転職しても柔軟な勤務形態を選択できる**企業選択肢が豊富**

業種別テレワーク導入率比較



出典：厚生労働省「テレワーク総合ポータルサイト」データ参照

💡 リモートワークのメリット

- 通勤ストレス・時間の削減
- 居住地選択の自由度向上
- 家族と過ごす時間の増加
- 効率的な業務遂行と生産性向上
- 育児・介護と仕事の両立がしやすい

やりがいの質の違い

🏢 公務員：制度やサービス提供で社会貢献

政策立案や行政サービスを通じて広く社会全体に貢献
成果が目に見えにくく、長期的な視点での評価が中心
安定した制度設計と公平なサービス提供が主な役割

💻 IT：作ったシステムが直接ユーザーに届く手応え

自分が開発したシステムやサービスが**直接的な反応**をもたらす
ユーザーの声やデータから**即時的なフィードバック**を得られる
技術革新や問題解決を通じた創造性発揮の機会が豊富

👉 両方の強みを活かす

公共DX領域なら両方のやりがいを融合できる

- ・公務員の知見を活かして社会課題を理解
- ・ITスキルで具体的な解決策を実装
- ・社会への広範な貢献と直接的なユーザー体験向上の両方を実現

公務員のやりがい

⚖️ 公平・公正なサービス提供

👥 多くの市民への波及効果

🛡️ 社会の安全・安定への貢献

ITエンジニアのやりがい

🚀 革新的なソリューション創造

📊 成果の可視化と測定

💡 技術的創造性の発揮

💡 成功事例

元公務員がITエンジニアとして公共システムの刷新プロジェクトを主導し、利用者満足度が60%向上した例も

※公共DX領域では、行政知識とIT専門性の両方を持つ人材が重宝される

公務員経験が生きる領域

行政手続デジタル化、標準仕様準拠システム導入

デジタル庁主導で**2025年度まで**に全地方公共団体の基幹業務システムを標準化・ガバメントクラウドへ移行

 AWS

 Google Cloud

 Microsoft Azure

調達・制度理解が必要なプロジェクト推進

公共調達の経験と行政制度の理解があるIT人材は**市場価値が高い**。複雑な入札要件や規制に精通している強みを活かせる

ガバメントクラウド・公共SaaS導入支援

自治体窓口DXSaaS：複数事業者がガバメントクラウド上に構築したサービスを各自治体を選択して利用可能

行政内部の業務フローを熟知した元公務員は**DX推進の貴重な戦力**になれる

公務員経験者の強み

業務知識の深さ

行政業務プロセスへの深い理解と洞察

法令・規制への理解

自治体システムに求められる法的要件の把握

行政組織文化の理解

自治体内部の意思決定プロセスや文化への適応力

ステークホルダー調整力

多様な関係者との調整経験とコミュニケーション

注目の公共DX案件

- マイナポータル連携サービス開発
- 自治体RPAソリューション導入
- 公共AIチャットボット開発・運用
- 行政手続きオンライン化支援

中長期で伸びる報酬構造

📈 スキル蓄積で継続的に上がる傾向

基盤システムエンジニア平均年収：660.4万円（日経調査）

20代SEの平均年収：約452万円（日本の給与所得者平均433万円より高い）

🚀 技術や業務知識を活かせば単価も急上昇

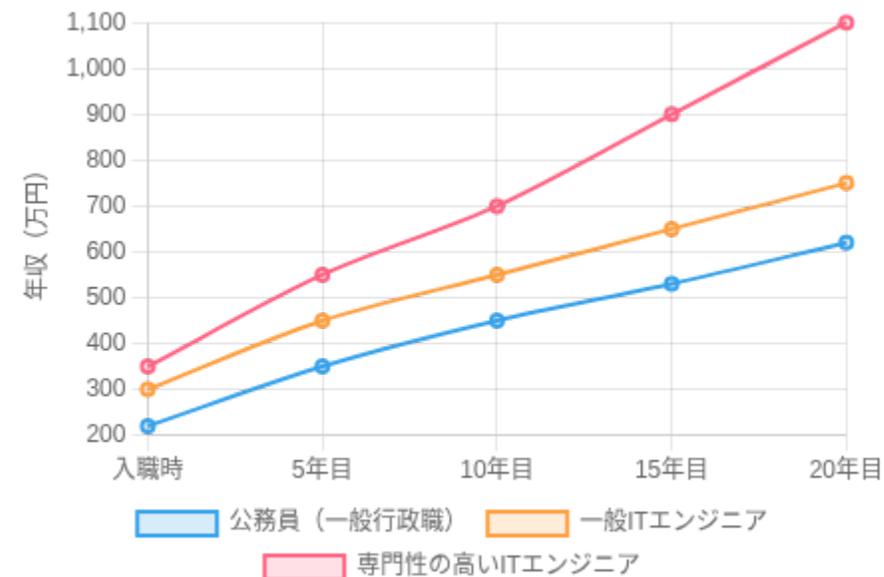
AIエンジニア年収相場：800～1,000万円（JAC Recruitment調査）

特定業界（金融・医療等）の業務知識を持つITエンジニアは市場価値が高く、単価交渉力が強い

🔄 年功序列から"成果+スキル評価型"への転換

IT業界は公務員のような年功序列ではなく、**成果とスキル**による評価体系が一般的
短期間でのキャリアアップや年収アップが可能な環境

ITエンジニア×公務員 年収推移比較



出典：厚生労働省「賃金構造基本統計調査」、各種IT業界調査データを基に作成

💡 キャリアパスの違い

公務員：予測可能な緩やかな上昇カーブ

ITエンジニア：スキル・経験・専門性により**急激な上昇**が可能

特に**公共DX**領域では、行政経験+ITスキルの組み合わせで高い市場価値を獲得できる

IT/AIは現代の必須教養

✓ 生成AIやITツールは全職種の業務効率に直結

データ入力・レポート作成・情報検索・分析などあらゆる業務でAI活用が業務効率を2~5倍に向上

✓ AIを使いこなせる人とそうでない人で生産性に大きな差

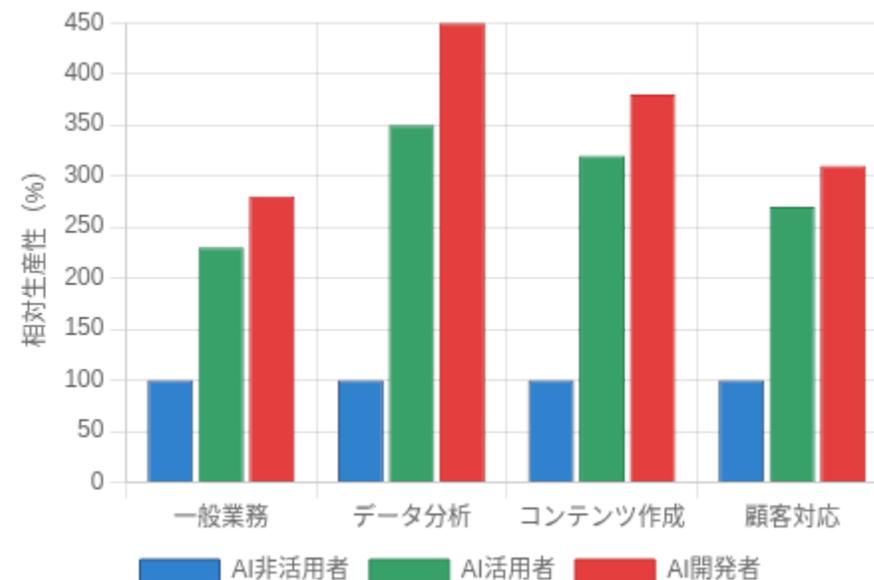
調査によると、ITエンジニアの63%がAIによるキャリア変化を感じており、85%が必要スキルの変化を実感

✓ 「作る側」になるならさらに価値は倍増

AI活用エンジニアの市場価値は急上昇：年収相場は約800~1,000万円（JAC Recruitment調査）

今から学び始めれば、ITエンジニアに限らず将来どの職種でも圧倒的な競争力を持てる

AI活用と生産性向上の関係



出典：生産性向上研究会「AI活用と業務効率化」2024年調査

💡 ITスキルの将来性

経済産業省予測：AIエンジニア需要は2020年3.8万人→2030年24万人へと急増。技術革新が加速する中、AI/ITリテラシーは全ての職業で標準的な必須スキルに

まとめ・次の一歩

1 ITは今後も需要が続く成長市場

経済産業省予測：IT人材不足は2030年に16万人規模まで拡大。DX推進で企業の投資は今後も継続。
長期的視点でITスキルへの投資は安定したキャリア資産になる。

2 生成AI時代に活躍できる土台を作れる

生成AIツールを使いこなせる人とそうでない人の間に生産性格差が生じている現実。
早期にAI活用スキルを身につけることで、次世代のデジタル人材としての価値を高められる。

3 公務員経験は公共DX分野で差別化できる武器

行政手続きのデジタル化やガバメントクラウド・公共SaaS導入に公共業務の知見が必須。
公務員経験 × ITスキルの組み合わせは市場価値の高い希少な人材像。

 **今こそ、行動を起こす時！**

一歩踏み出すことで、あなたのキャリアに新たな可能性が広がります